



令和7年(2025) 3月10日

55

## 関東三大梅林のひとつ おごせ 越生梅林



3月1日、埼玉県入間郡越生町の越生梅林で梅祭りを楽しみました。まだ満開には早く5分咲きくらいでしたが、美しい梅がたくさん咲いていて、多くの人で賑わっていました。

梅まつりは、3月16日まで開催されており、11日から16日まで白加賀という品種が満開となるといいます。

参考 越生町の公式ホームページ

<https://www.town.ogose.saitama.jp/event/3032.html>

越生梅林は「関東三大梅林」(水戸の偕楽園、熱海梅園とこの越生梅林)で園内は約2ヘクタールの広さがあり約1,000本、33種類の梅の木が植えられています。1350年頃九州太宰府から小杉天満宮(現梅園神社)を分祀した際、菅原道真公にちなんで梅を植えたのが起源と伝えられています。江戸時代には梅は越生の特産品になっていて生の梅を出荷していた記録があります。

明治時代になると観光地として注目され、多くの文人墨客を魅了するところとなり、明治34年には、歌人で国文学者の佐佐木信綱が来遊し、“入間川高麗川こえて都より来しかひありき梅園のさと”の句をのこしています。

## 越生梅林

越生の梅は、太宰府から小杉天満宮（現梅園神社）を勧請した際に、菅原道真に因んで梅を植えたのが起源と伝えられている。

江戸時代には、すでに梅は越生の特産品で、生梅を出荷していた記録もある。

明治になると観光地としても注目されるようになり、明治三十三年には地元有志らが「古梅林保勝会」を結成し、翌年には、越辺川岸の一画が奈良の月ヶ瀬梅林にあやかって「新月ヶ瀬豊楽園梅林」と命名された。

同年、歌人で国文学者の佐佐木信綱が来遊し、「入間川高麗川こえて都より来しかひありき梅園のさと」の歌をのこした。

昭和十七年（一九四二）には、大字堂山字前河原を中心とする約二ヘクタールが埼玉県指定名勝「越生の梅林」に指定され、関東屈指の観梅の名所へと発展する礎となった。

平成二十八年三月

越生町教育委員会



## 古木「魁雪」

越生の梅は、南北朝時代の観応元年（一三五〇）に九州太宰府から小杉天満宮（現梅園神社）を分祀した際、菅原道真にちなんで梅を植えたのが起源であると伝えられている。魁雪はそのころの梅（越生野梅）が、ここまで生き永らえたものと推定される。

太田道灌の父、太田道真是退隠後、越生に居館自得軒を構えていた。歌人としても名をなした道真是川越（河越）城で主催した連歌会「川越千句」では、

梅さきぬ なお山里を おもふ哉

と詠んでいる。この会にも同席した当代一流の連歌師心敬や宗祇も、越生の梅を讃えた句を残している。

文明一八年（一四八六）六月、道灌は詩友万里集九とともに自得軒に父を訪ね、詩歌会を開いた。道灌が謀殺されるのは翌七月のことである。父子最後の対面となったこの折に、万里が詠じた漢詩

「郭公秘」は、万里の漢詩文集「梅花無尽歳」に収められている。

道真道灌父子が、あるいは、中世の雅人たちが、この梅の花を愛で、その実を手にとったかもしれない。

梅の木は樹齢二百年にもなると、ねじれが始まってくるという。人の世の栄枯を見つめ、六百有余年を経て、なお可憐な花を咲かせ続ける貴重な名木である。

一般社団法人越生町観光協会

太田道灌の父の太田道真是越生に居館を構えていて、太田道灌も亡くなる前の月にここを訪ねていました。

園内に「太田道灌をNHKの大河ドラマに！！」と書かれたプラカードやのぼり旗を見かけました。私もいずれはぜひ実現してほしいと思いますが、先日再来年の大河ドラマの主人公は小栗上野介忠順(おぐりこうずけのすけただまさ)に決まりました。小栗忠順の墓所・東善寺は、群馬県高崎市にあり、私にとってはうれしい結果となりました



## 【梅の品種】

梅は、バラ科サクラ属に属する落葉高木。原産地は中国、日本には奈良時代よりも前に渡来したとされている。現在は日本だけで300以上の品種があるといわれ、大きく「花梅」と「実梅」に分けられている。花梅は、花の鑑賞が目的の品種。種類が非常に多く、品種ごとに異なる花の色や香りを楽しむ。盆栽として楽しんでいるのは、花梅に分類される品種。一方で実梅は、果実を食用として使用する品種。実梅の品種だけでも全国で約100種類はある。品種によっては美しい花を咲かせるため、花梅として楽しむことも可能。

### ● 花梅の系統

花梅は大きく野梅系・緋梅系・豊後系の3系に分けられる。

#### ◆ 野梅(やばい)系

中国由来の梅の原種に近いとされる品種。全体に花や葉は小さく、枝も細い。香りが良いことでも知られる。野梅系はさらに、野梅性(やばいしょう)、難波性(なにわしょう)、紅筆性(べにふでしょう)、青軸性(あおじくしょう)の4性に分けられる。

##### 【野梅性】

多くの品種がある。花の色は白色や淡い紅色、比較的早咲きの傾向にある。冬至(とうじ)、一重野梅(ひとえやばい)、八重野梅(やえやばい)、見驚(けんきょう)などが主な品種。

##### 【難波性】

樹形は小ぶり、小枝が多い。花の香り良く、比較的遅咲き。御所紅(ごしょべに)、蓬萊(ほうらい)などが主な品種。

##### 【紅筆性】

名前のとおり、つぼみの先端が筆のように赤とがっているのが特徴。紅筆、内裏(だいり)などが主な品種。

##### 【青軸性】

枝が緑色なのが名前の由来。青白い色の花を咲かせる品種もある。月影(つきかげ)、白玉(しらたま)、緑萼(りよくがく)などが主な品種。

### ◆ 緋梅(ひばい)系

野梅系が変化した品種、枝や幹の断面が赤色をしている。花は紅色や緋色の品種が多いが、白色のものもある。大きく、緋梅性(ひばいしょう)、紅梅性(こうばいしょう)、唐梅性(とうばいしょう)の3性に分けられる。

#### 【緋梅性】

濃い紅色の花が多く、樹形は全体的に小さい。緋梅、鹿児島紅(かごしまべに)、蘇芳梅(すおうばい)などが主な品種。

#### 【紅梅性】

明るい赤色の花を咲かせる場合が多いが、白色の花を咲かせる品種もある。大盃(おおさかずき)、紅千鳥(べにちどり)、東雲(しのめ)などが主な品種。

#### 【唐梅性】

花が下向きに咲くのが特徴、桃色に近い花の色をしている。代表的な品種としては、唐梅(からうめ)が挙げられる。

### ◆ 豊後(ぶんご)系

梅とアズノの交配で生まれた品種。花はピンク色をしたものが多く見られる。木の幹が太く花や葉は大きいのが特徴。野梅系や緋梅系と比べて、花の香りは控えめな傾向にある。豊後性(ぶんごしょう)と杏性(あんずしょう)の2性に分けられる。

#### 【豊後性】

枝が太く、葉や花も大きめなのが特徴。遅咲き、多くの品種は淡い紅色の花を咲かせる。桃園(ももごの)、楊貴妃(ようきひ)、桜鏡(さくらかがみ)などが主な品種。

#### 【杏性】

豊後性よりも枝が細く葉も小さい、葉に毛がないといった特徴がある。淡い紅色や白に近い色の花を咲かせる。一の谷(いちのたに)、緋の袴(ひのはかま)など主な品種。

## ● 実梅の種類

実梅は100種類ほどの品種があるが、全国的に栽培されている品種はあまり多くない。有名な品種としては、南高梅や白加賀、豊後などが挙げられる。

### 南高梅(なんこう うめ)

実梅の中で知名度が高く、生産量も多い。和歌山県の紀州南高梅は高級品とされている。皮が薄く果肉は柔らかいので、ジューシーな食感を楽しめる。種が小さめなので、食べ応えもある。粒の大きさが通常よりも一回り小さい「小粒南高」と呼ばれる品種もある。小粒南高は花粉をたくさん飛ばすため、他の品種の梅を受粉させる「受粉樹」としても使われている。

### 白加賀梅(しらかが うめ)

群馬県を中心に、主に東日本で栽培されている品種。形の美しい実と、繊維が少なく肉厚な果肉が特長。南高梅に比べると、さっぱりとした味わい。

### 豊後梅(ぶんご うめ)

寒さに強いので、東北地方をはじめとした寒冷地でも栽培されている品種。酸味が少なく果肉が多いことから、梅酒やジャム、梅シロップに向いている。

### 鶯宿(おうしゆく)

古来種、実は硬く香りが強い。奈良県や徳島県などで栽培されている。梅酒や梅ジュース、カリカリ梅などの他、受粉樹としても使われている。

### 古城梅(こじろ うめ)

青梅の一級品で、青いダイヤと呼ばれることもある。主な生産地の和歌山県でも生産量が減っている希少性の高い品種。南高梅より実が引き締まっていて、フレッシュな香りがある。

### 龍峡小梅(りゅうきょう こうめ)

実が小さい小梅の中では、特に多く生産されている。カリカリ梅の原料としてよく使われている。主な産地は長野県で、5月下旬～6月上旬頃に収穫される。

### 甲州最小(こうしゅう さいしゅう)

龍峡小梅と同じく、カリカリ梅の原料としてよく使われている。小粒ながら種は小さく、果肉の厚い品種としても知られている。「甲州」という名前からもわかるように、主な産地は山梨県。



#### 〔管理者よりひとこと 加藤良一〕

越生といえば、コロナ禍で敢行したオペラ〈歌劇 幕臣・渋沢平九郎〉のことを思い出します。主人公渋沢平九郎は、飯能と越生の境にある顔振峠こおぶりで壮絶な最期を遂げた場所なのです。

平九郎は、弘化4年(1847)、武蔵国榛沢郡下手計はんざわ しもてばか(現在の埼玉県深谷市下手計)の名主尾高勝五郎じゅんちゅうの末子として生まれ、兄の惇忠や長七郎、従兄の渋沢成一郎、渋沢栄一らの影響を受けて育ちました。性格は温厚、沈着で勇気や決断力があり、所作は美しく色白で長身、腕力があると評されています。

慶応3年(1867)、渡欧する義兄栄一の見立養子(跡継ぎ)となった平九郎は、江戸に出府し日本橋本銀町で、幕臣としての生活を始めます。翌年には、徳川慶喜の復権を図るべく成一郎が組織した彰義隊しんぶぐんに参加し、その後、惇忠や成一郎と隊を離脱して新たに振武軍はんのうを結成しました。

同年5月、振武軍は上野戦争で壊滅した彰義隊しょうぎたいの残党を合わせて飯能町はんのう(現在の埼玉県飯能市)に入りました。23日未明から新政府軍と戦闘を開始しますが、相手の圧倒的な兵力を前に惨敗し振武軍は四散、敗走しました。惇忠や成一郎とはぐれた平九郎は、飯能と越生の境にある顔振峠こおぶりから黒山村(現在の越生町黒山)に下りてきたところを広島藩の斥候に見咎められ、3人を相手に奮戦後、最期を悟り自刃しました。享年22(満20才)でした。

渋沢平九郎が壮絶な自刃を遂げるまでをオペラにした〈歌劇 幕臣・渋沢平九郎〉(西下航平作曲)の初演(2021年2月6日)、新選組やその他の端役と合唱隊としてオンステしました。この公演はコロナ禍真っ盛りのなかとなってしまったため、予定を一年延期するなど並大抵ではない苦労の連続となりました。その後、2回再演されています。このときの体験を『コロナ禍乗り越えオペラ上演〈歌劇 幕臣・渋沢平九郎〉』として一冊の本にまとめ、アマゾン出版より上梓しました。

オペラの模様は以下の専用サイトに詳しく紹介しています。

[https://rkato.sakura.ne.jp/music/shibusawa\\_heikuro\\_top.html](https://rkato.sakura.ne.jp/music/shibusawa_heikuro_top.html)

## 〔 齋藤茂樹の北関東巡り バックナンバー 〕

<a href="#">#1</a> 鎌倉殿の13人	<a href="#">#21</a> 第50回宇都宮市民合唱祭	<a href="#">#41</a> 伊勢崎市の歴史／バレンタインデー
<a href="#">#2</a> 紅葉の群馬県	<a href="#">#22</a> 骨波田の藤と塙 保己一	<a href="#">#42</a> 第51回宇都宮市民合唱祭
<a href="#">#3</a> 栃木、埼玉の名所	<a href="#">#23</a> 大室古墳群、鼻高展望花の丘	<a href="#">#43</a> 古の音 スペイン黄金世紀のビウエラ歌曲
<a href="#">#4</a> 栃木、群馬県庁	<a href="#">#24</a> 桜とあじさい、紅葉の太平山	<a href="#">#44</a> 池大雅 — 陽光の山水
<a href="#">#5</a> 全国御守り特集	<a href="#">#25</a> ドン合唱団 歌い続けて65年	<a href="#">#45</a> 富岡製糸場と絹産業遺跡群 田島弥平旧宅
<a href="#">#6</a> 世良田東照宮・家康	<a href="#">#26</a> 宇都宮市民芸術祭合唱フェス	<a href="#">#46</a> 古代蓮と田んぼアート 埼玉県行田市・古代蓮の里
<a href="#">#7</a> 栃木・益子の陶器	<a href="#">#27</a> 第63回群馬県合唱コンクールを聴く	<a href="#">#47</a> SUBARU航空宇宙カンパニー
<a href="#">#8</a> 奥の細道むすびの地	<a href="#">#28</a> お盆飾りを調べてみた	<a href="#">#48</a> 秋の演奏会シーズン到来
<a href="#">#9</a> 古鎌倉街道	<a href="#">#29</a> KTC混声合唱団を聴く	<a href="#">#49</a> 銅山の歴史を語る日鉱記念館
<a href="#">#10</a> 新田義貞・上毛かるた	<a href="#">#30</a> 伊勢崎藩を守れ！天明浅間山大噴火	<a href="#">#50</a> 上州神社巡拝 神玉巡り
<a href="#">#11</a> 慈覚大師 円仁	<a href="#">#31</a> 陶器・像形展から銀座・日本橋界限を散策	<a href="#">#51</a> 床もみじ リフレクション、床に映える世界
<a href="#">#12</a> バレンタインチョコ	<a href="#">#32</a> 宇都宮芳賀ライトレール線開業	<a href="#">#52</a> 日清製粉「製粉ミュージアム」、田中正造記念館など
<a href="#">#13</a> 梅の名所 愛知・京都	<a href="#">#33</a> 第14回男声合唱フェスティバルin宇都宮	<a href="#">#53</a> 2024 年末に聴いたコンサート
<a href="#">#14</a> 梅の名所 栃木・群馬	<a href="#">#34</a> コーア・リヒト 第5回演奏会	<a href="#">#54</a> 冠稲荷神社&バレンタインチョコ
<a href="#">#15</a> 早咲きの河津桜	<a href="#">#35</a> 江戸城周辺散策	
<a href="#">#16</a> シアトルの花見	<a href="#">#36</a> 古巣の合唱団ノース・エコとボーイング	
<a href="#">#17</a> 宇都宮市民合唱祭	<a href="#">#37</a> 4泊5日の日光満喫旅行	
<a href="#">#18</a> 桜の名所 愛知・兵庫	<a href="#">#38</a> 日光で新たな発見！	
<a href="#">#19</a> 群馬の桜と上毛かるた	<a href="#">#39</a> 水戸バッハコレギウムを聴く	
<a href="#">#20</a> 交通の要所・館林	<a href="#">#40</a> 笠間焼 益子焼 かさまじこ	

Back

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

Home

「ホームページ」表紙へ戻る